慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	私の本棚
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学理工学部
Publication year	2012
Jtitle	新版 窮理図解 No.11 (2012. 9) ,p.7- 7
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000011-0007

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

私の本棚
My favorite books

The Boundaries of Consciousness: Neurobiology and Neuropathology　理学・医学・工学の分野から「意識とは何か」に迫った書です。特に、脳を勉強していく人にとっては脳機能の基礎から病理の世界まで幅広い領域の勉強ができます。40 ものトピックがあり、それぞれ完結しています。なかには臨死体験の話もあり、読み物としてはたいへん面白いと思います。専門用語が分野によって異なるため、これを読破すれば、理学・医学・工学分野から脳にアプローチする際に扱われる用語を理解できます。

EEG Signal Processing　脳波信号処理について、とても詳しく書かれた専門書です。ノイズ除去の話から脳波信号の解析まであらゆる手法が紹介されています。満倉研に配属され、生体信号班になった学生は必ず手にすることになる一冊です。

パターン認識と機械学習（上・下）　このビショップの本は、私が知り得る限りでも幅広い分野の研究者が勉強会などに用いています。特に若い世代（博士学生を含む）の有志が集まって毎週きっちり勉強会なども行っているようです。原著と読み合わせると、英語の細かいニュアンスを学ぶこともできます。ベイズ理論を基盤とした視点で機械学習やパターン認識の理論と応用を詳しく説明しています。知識をたっぷり得ることができる一冊です。

感覚・感情とロボット　本書は、感覚・感情・感性について様々な分野の専門家が、自分の専門分野の見地から分かりやすく解説している本です。どうしても理工学の立場で考えやすい感覚・感情・感性を、心理学、芸術、歯学、医学など広範な視点からのアプローチで分かりやすく紹介し、コンピュータやロボットに適用するためのシステム設計、デザイン工学など、多岐にわたる応用例なども紹介されています。これから本格的に研究を始めようとする学生にとっては、とても興味深い一冊だと思います。

モモ　一見、柔らかい文章で子供のために書かれた児童書です。しかしながら、大人になって読むと捉え方が全く変わってくる不思議な一冊です。価値観に関する本で、何を大切にするのが幸せなのか、現在自分が大切にしているものによって本当に幸せになっているかといった問題を投げかけた本です。この本はミヒャエル・エンデの著書ですが、実は「時間＝お金」と置き換えて経済界では重要な教科書と言われており、資本主義に対する警告とまで言われている奥の深い一冊です。読者それぞれの年代で価値観や考え方は違いますが、大人になって読んでみるととても考えさせられる一冊でした。

心と脳　心は、感情や社会性や記憶や思考のような、いろいろな要素的な機能が相互作用して働く情報処理システムです。この情報処理システムを分かりやすく丁寧に、しかしながら他のこの種の本と違い、理論的に非常に広範な学問領域からの学説や著者の知見について書かれており、読んでいて全く飽きることなく知的好奇心をかきたてられる一冊でした。著者は認知科学の専門家、言わずと知れた我らが前塾長、安西祐一郎先生の一冊です。